

# 第 3 章

取組方策を通じた横断的視点

## 3

## 取組方策を通じた横断的視点

府は、次の3つの横断的視点を据えて、取組を進めていきます。

### 視点① 様々な連携

- ⊕ 水道事業が抱える課題に対応していく上では、「連携の視点」が欠かせません。府と受水市町の連携を、より深く、強固なものとしていくことを基本に、上下流域の事業者や技術の蓄積を有する大規模事業者・近隣用水供給事業者をはじめ、企業・大学・学識経験者などとの連携、さらに現役職員とOB職員との交流など、様々な連携を幅広く進めていきます。
- ⊕ とりわけ、有識者・民間セクターとの交流・連携促進に向けては、「水循環プラットフォーム」（資料 3-②）を創設し、府内水道事業者等が適切な技術支援を受け、府内水循環施策の推進を図る仕組みを構築するなど、連携の輪を広げ、そのつながりを活かすよう進めていきます。

<取組例>

- ◆ 府営水道と受水市町との協働の拡大（着実な広域連携の推進）
- ◆ 京都市等大規模水道事業者等と連携した技術の研鑽・人材育成
- ◆ 有識者・民間セクターの参画を得た「水循環プラットフォーム」の創設
- ◆ 上下流域事業者と連携した広域的な水安全の確保

### 視点② 上下水道を通じた水循環

- ⊕ 上下水道は、共に適切な水循環を支えるライフラインであり、水処理技術を活用して水質を良好に保ち、日々の生活の安全を支えることが求められています。技術面での共通要素もあり、事業を担う民間事業者は双方を併せ持つところも多く、また、災害時には水の流れ・循環を見通した対策が必要となります。さらに、上下水道は、川を通じて連なり、流域圏での良好な水循環環境の確保・形成など、主体・分野を越えた広域的な対応が重要になっています。
- ⊕ ほとんどの市町村では、上下水道部門は統合されていますが、京都府においても、平成20年度に組織再編し、上下水道を一体的に所管する部署を設けました。京都府の組織理念を具体化させ、上下水道が強力に連携し、人材育成・技術蓄積、危機管理対応及び環境・エネルギー対策など、前章に掲げた各般の課題に、総合力を発揮して取り組んでいきます。また、市町村に対しても、水循環プラットフォームへの参画を呼びかけるとともに、水循環マップなども示しながら、水循環の視点を活かせるよう働きかけていきます。

<取組例>

- ◆ 上下水道に共通するノウハウの共有、技術の開発・相互利用
- ◆ 大規模被災等の場合のチームプレー
- ◆ 水循環マップ等を利用した総合的な水循環施策の推進
- ◆ 上下流域事業者と連携した広域的な水安全の確保（再掲）

### 視点③ 京都府の独自性

⊕ 山紫水明の地、京都は、地球環境問題への危機感が共有され、一定の国際的合意が得られた「COP3」が開催されるとともに、世界の水問題に警鐘を鳴らした「第3回世界水フォーラム」の開催地でもあることから、府営水道においてもこうした流れに呼応し、先導的な環境施策に取り組んできました。また、京阪神地域の中でも高度浄水処理をいち早く導入してきたこと、全国的にも例がない異なる水源から取水する3つの浄水場を結ぶ広域水運用など、積極的に取り組みを進めてきました。

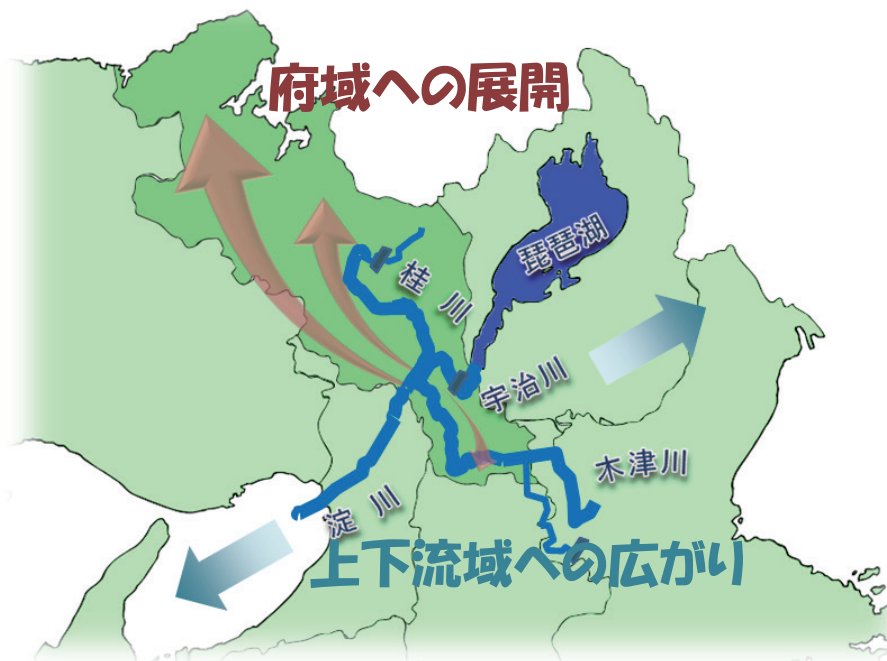
⊕ 「京都にしかない」、「京都だからやってきた」、こうした事に、府営水道を担う職員一人ひとりが自負とこだわりを持ち、今後の府営水道の様々な取組・展開の中でも、十二分に活かすことを重要な視点として据えていきます。

#### <取組例>

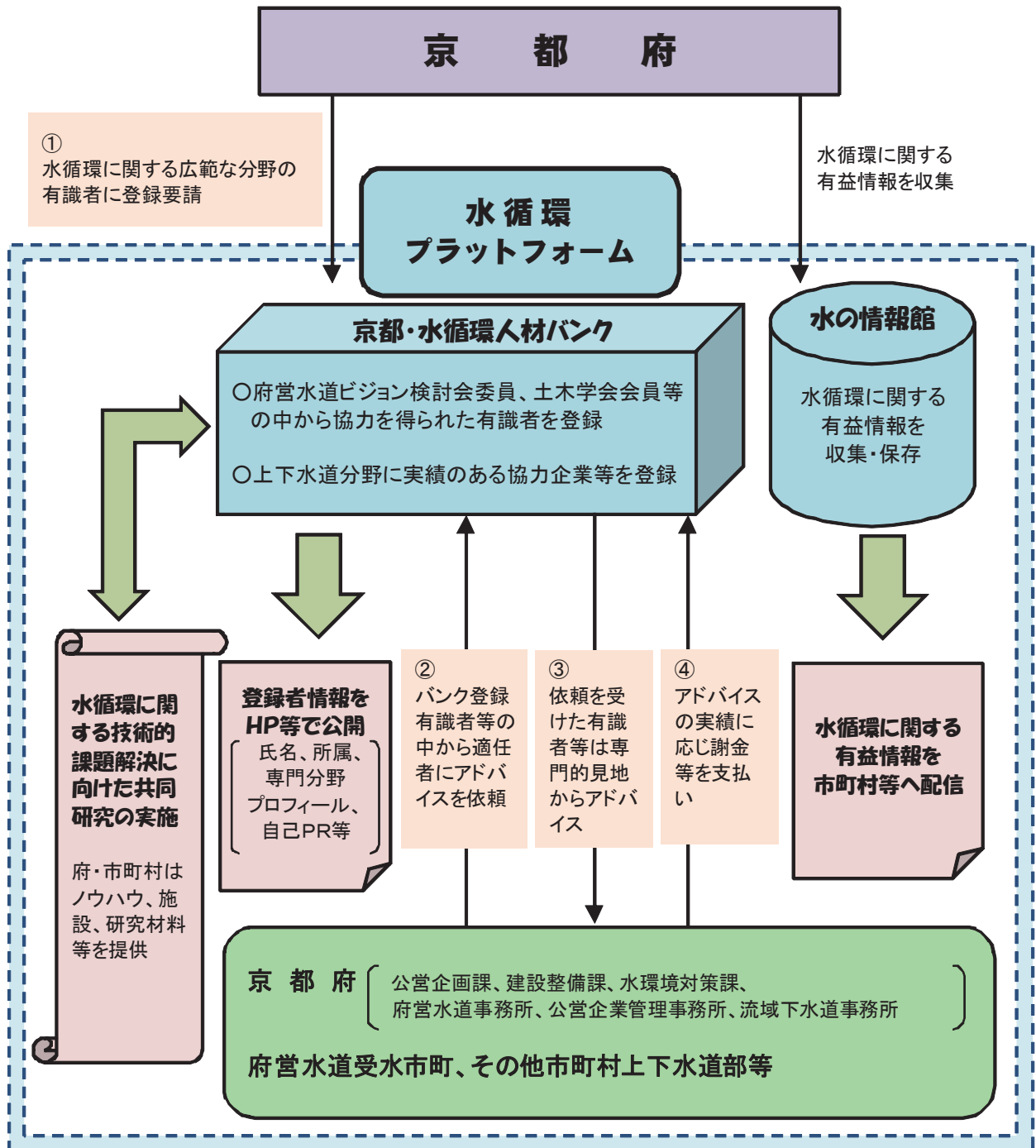
- ◆ 有識者・民間セクターの参画を得た「水循環プラットフォーム」の創設(再掲)
- ◆ 先導的な環境対策等の情報発信、環境技術の積極導入
- ◆ 世界の水問題への貢献をめざした大学・企業・水辺環境を守るNPO等との連携
- ◆ 府営水道水ペットボトル等による3浄水場接続の取組等の情報発信

これら横断的視点を据えた府の取組は、「府南部10市町に関わる府営水道」という枠を越え、より広く府内へ、そして琵琶湖淀川水系へとその範囲を広げ、また、波及効果を生むことが期待されます。府は、取組を限定することなく、様々な可能性を模索し、視野を広げた取組を進めていきます。(資料3-①)

[資料3-① 横断的視点を据えた取組による広がり]



[資料 3-② 水循環プラットフォームのイメージ]



第3章 取組方策を通じた横断的視点